

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0331
施設名	昭和郷保育園
施設所在地	昭島市 中神町1260番地
法人名	社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

運動遊び

<テーマの設定理由>

- ・鬼ごっこや追いかっこ等、走る遊びは好んで行っているが、運動器具を用いて身体を動かすことに苦手意識がある子どもたちが多くいました。
- ・園庭に鉄棒があり、挑戦してみることを提案し誘ってみるが「できないからやりたくない」とあきらめてしまう姿もありました。
- ・運動遊びを通して「やってみよう！」という気持ちを育み、また、一人ひとりが自分の力を発揮できるようになってほしいという願いも込めて設定しました。

## 2. 活動スケジュール

- ・鉄棒などの用具について知る
- ・繰り返し行ってみる
- ・友だちのやっている姿を見る
- ・友だちの刺激を受け挑戦してみる
- ・運動遊びをすることが日常の一部になる
- ・鉄棒や平均台など運動遊びの工程を自分たちで考える

## 3. 探究活動の実践

- ・ぶらさがる、転がる、走る、飛び跳ねる、渡る、登るの基本動作を中心としながら楽しんでいった。無理強いせず、日常にいつもあるものとして設置し、いつでも繰り返し経験できるようにした。
- ・できるようになってくると友だち同士で喜び合ったり褒め合う姿も見られた。挑戦したり、頑張る友だちの姿を認めたりしながら、次第に仲間と一緒に活動することを楽しんでいった。
- ・鉄棒を難しいと思う子もいたが、運動遊びの基本動作を中心に行う中で自然と力がついていった。「おいしい！」という経験が増えてくると、さらに「やってみよう！」という継続の意欲に繋がり、自信がもてるようになってきた。

- ・様々な動きを経験するうちに、子どもたち自らアイデアを出して、自分たちのやりたい動きをリクエストするようになった。保育士が決めたコースではなく、子どもたちが日々の運動遊びの工程を考えるようになり、子どもたちがお互いのアイデアに触発されながら楽しさや面白さを感じていた。
- ・苦手意識がある子どもへは、強制するのではなく見ていても大丈夫であることを伝えた。しかし、日常にいつもあるものとして設置しいつでも経験できるようにすると、消極的な子どもだんだん興味を示してやってみる姿がみられた。
- ・「できた！」という経験がだんだん増えてくると「まえまわりやってみよう」と挑戦する姿も見られ、友だちの様子を見て「うでがのびている」と観察する様子も見られた。さらに、友だちに「こうしたらできるようになるよ」とアドバイスをする姿も見られるようになった。



#### 4. 振り返り

月一回体育指導で運動用具に触れる機会があったが、苦手意識を持つ子どももいた。日常の中で運動遊びができる場を保障することで、継続的な活動となった。「ぶら下がる・転がる・走る・飛び跳ねる・渡る・登る」の基本的な動きの中で様々なバリエーションを繰り返していくことで、苦手意識を持つ子どもが挑戦しやすく楽しみながら取り組むことができた。できないところではなく、「できる動き」からはじめ、成功体験をつめるようにした。いつもは最初からあきらめてしまう子どもも、友だちの姿を見て刺激をもらい、応援してもらうことで意欲に繋がった。一度「できた！」という達成感を感じると次は「こうしてみよう」「この技に挑戦してみよう」という目標や自信が生まれ、自己肯定感が高まっている姿が見られた。日々の経験が積み重なったことで、子どもたちから“こういうコースにしたい”と自発的な声があり工夫する力や探求心が高まった。構成を考える時は、すぐに保育士が示すのではなく、子どもの試行錯誤を待つ姿勢を大切にしたい。安全面だけは必要なところで調整し、その他は子どものアイデアをできる限り実現した。子どもたちが主体的に取り組む姿が多く見られるようになったことは大きな成果だった。